

会長さんを訪ねて



地域商工人としての誇りと 熱い想いを胸に・・・

一迫花山商工会

会長 齋藤 昭芳氏

「会長さんのご商売について
お聞かせください。」

書籍・文具・事務用品を扱う迫屋・文照堂を経営しております。もともとは昭和二年から日用雑貨等を扱う「よろず屋」的な店から始まったのですが、父親が本好きでいつの頃から書籍を扱うようになりしました。

しかし、経営基盤は父親よりも母親が相当腐心して培ってくれたもので、私は昭和三十四年にその母親から家業を引き継ぎました。

現在は次男（芳幸氏）が、PC事務機及び周辺機器等を扱っておりますので経営の主力をシフトしつつあります。

「最近の地域の経済状況等はいかがですか。」

一部製造業等に回復の兆しは見られますが、全体としてはまだまだ厳しい現状が続いております。



地区を代表する「花山鉄砲まつり」

提案・要望等を通して、商工施策がより地域や我々商工業者にとって効果的なものとなるよう協力していきたいと考えています。

「合併商工会として今後の対応等はいかがお考えでしょうか。」

私達の地域は、県内市町村の多くがそうであるように、少子高齢化の波に洗われている地域であります。

組織（地域）が活性化するためには「人・モノ・金・情報」が常に回っている状態であることが必要と言います。

元気な経営

がんばる女将さん

「長年の夢が叶い、元気に「いらっしやいませ！」」



おしよくじ 照

千葉 しげ子さん

本吉唐桑商工会

「今回は、県北東部の本吉町でペンション・食堂「おしよくじ照」を営む、千葉しげ子さんを訪ね、今の家業のきっかけ等について伺いました。」

三年前、「いい物件がある」と突然声がかかり、チャンス

と思いました。料理好きな私は、将来店を持ちたいと日々努力していました。まさか実現するとは思ってもいませんでした。しかし、夢が叶えられるという喜びと、これまでの寝具・インテリア業を続けるか、眠れぬ程悩みましたが、大英断を下したのでした。氷河期とも言えるこの時期

そのための取組みとして地域商業の活性化の鍵となるお年寄りの方々（人）に町中に出かけていただくため、デマンド交通システムを既に行っており、また、今まで一迫・花山で夫々行っていたポイントカードを統一し、（モノ・お

金）が回る一つの仕組みを作り上げたいと思っております。また、工業・製造業関係では、国の産学連携事業等により、栗駒山系の良質な水資源に期待が寄せられているところでもあります。

これらの取組みや地域資源を基に将来の魅力ある地域・組織づくりに繋げられるか否かは、我々商工人が培った知識・経験とやる気できく左右されるものと思っております。会員の皆様には是非、商工人としての誇りと信念を持って、決意を新たに商工会事業等にご協力いただきたいと思っております。

に無謀にも商売替えをした要因は、私の代で暖簾を下ろしたら、何のために先代が五女の私に家業を継がせたか、という強い信念があったからです。家族の思いも一つになった時でした。

かくして、降って湧いたビジネスチャンスに、せわしなく開店準備に入った訳ですが、大幅な予算オーバーで運転資金も底をつき、不安になった時期もありました。そんな時、友人達とその知人も連れ立ってお手伝いをしてくれたのです。おかげで順調な滑り出しが出来ました。



旅人をもてなす「おしよくじ照」

当地を訪れる旅人に、「食と人」との出会いを、どう提供出来るか考えた時、同業者と共存共栄を図っていくことが大切だと思ふのです。商いの基本はどの業種でも同じと心に置き、お客様が何を求め、何を喜ぶかお一人お一人に気を配り、汗を流して働くのが私の使命だと思っています。

「お店の売りは、「新鮮な三陸の食材と楽しい会話、そして張り切る女将」と、今日も「いらっしやいませ」と声軽やかでした。」